

キャンドルに願いを灯して・・・

「キャンドルライトプロジェクト」は、震災からの復興と記憶の風化防止への願いを、キャンドルライトのメッセージに込めるプロジェクトです。3月11日の1ヶ月ほど前、1年生の有志が「キャンドルライトプロジェクト」を企画しました。私もこのプロジェクトに参加し、メンバーと協力して取り組みました。プロジェクトに参加したきっかけとなったのは、去年の12月上旬に参加したSA沿岸震災復興現地研修会です。この研修は田老地区へ行き、「学ぶ防災」や田老総合事務所の方から話を聞くというものでした。私は研修をする前は、津波の被災地である田老も震災から約5年も経っているため、復興はだいぶ進んでいるだろうと思っていました。しかし、現実とは違いました。そして、津波被害を経験したガイドや講師の方の話を聞き、東日本大震災に対する考えが変わりました。田老は防潮堤がまだ完成しておらず、仮設住宅もまだまだあり、震災からの復興に、5年では時間が全く足りないのだと実感しました。そして、自分たちに何ができるだろうかと考え、東日本大震災という悲劇が風化することを「キャンドルライトプロジェクト」で防止できるのではないかと思います。実施しました。私がプロジェクトのボランティアとして水沢駅で募金活動をしている時、「今さら東日本大震災の募金をするの？」という声が高校生から高齢者に至るまでありました。そして、内陸と沿岸では「5年」の考え方が大きく違うのだと思いました。

3月11日の「キャンドルライトプロジェクト」当日は水沢高校の生徒、先生、地域の方々など100人近くの方に来ていただきました。募金は約7万円も集まり、キャンドルを綺麗に灯し、成功することができました。この活動と一緒に参加した仲間と協力してくれた方々にとても感謝しています。



「キャンドルライトプロジェクト」 参加者の感想

- ・ 音楽部として、歌を歌うという自分たちができることで参加できて良かったです。「感動した」「素晴らしいかった」と言ってもらい、とてもうれしかったです。
- ・ このプロジェクトに設計係として活動して考えることが多く、上手い出来ないことも多くあったけど、皆と協力して楽しみながら活動できたことは良い思い出となりました。
- ・ 紙コップのキャンドルに火が灯ったとき、とても感動しました。思いがこめられた一つ一つの紙コップによって作られる文字が、一段と輝いて見えました。たくさんのご協力ありがとうございました。
- ・ 今回の計画は、計画、募金などゼロからはじめたため、不安もありました。しかし、当日にはたくさんの方が手伝いに来てくれて、たくさんの方が見に来てくれました。この活動で震災のことを地域の方に意識してもらうことができました。少しでも復興支援、風化防止の力になれたと思いました！

(今回のSSH通信は、「キャンドルライトプロジェクト」のスタッフが製作しました。)

